

インマヌエル中目黒キリスト教会 聖日礼拝・2008. 1. 6.

メッセージ
「主の恵みの年」

ルカの福音書4章15-22節

竿代照夫牧師



聖書朗読

新約聖書

ルカの福音書4章15-22節

15 イエスは、彼らの会堂で教え、
みなの人にあがめられた。

16 それから、イエスはご自分の
育ったナザレに行き、いつもの
とおり安息日に会堂にはいり、
朗読しようとして立たれた。

17 すると、預言者イザヤの書が
手渡されたので、その書を開い
て、こう書いてある所を
見つけられた。

18 「わたしの上に主の御霊が
おられる。主が、貧しい人々に
福音を伝えるようにと、
わたしに油を注がれたのだから。
主はわたしを遣わされた。
捕われ人には赦免を、盲人には
目の開かれることを告げるため
に。しいたげられている人々を
自由にし、

19 主の恵みの年を告げ知らせるために。」

20 イエスは書を巻き、係の者に渡してすわられた。会堂にいるみな目がイエスに注がれた。

21 イエスは人々にこう言って話し始められた。「きょう、聖書のこのみことばが、あなたがたが聞いたとおり実現しました。」

22 みなイエスをほめ、その口から
出て来る恵みのことばに驚いた。
そしてまた、「この人は、
ヨセフの子ではないか。」と
彼らは言った。

説教

年頭講壇

「主の恵みの年」

ルカの福音書4章15-22節

竿代照夫牧師

主テキスト：

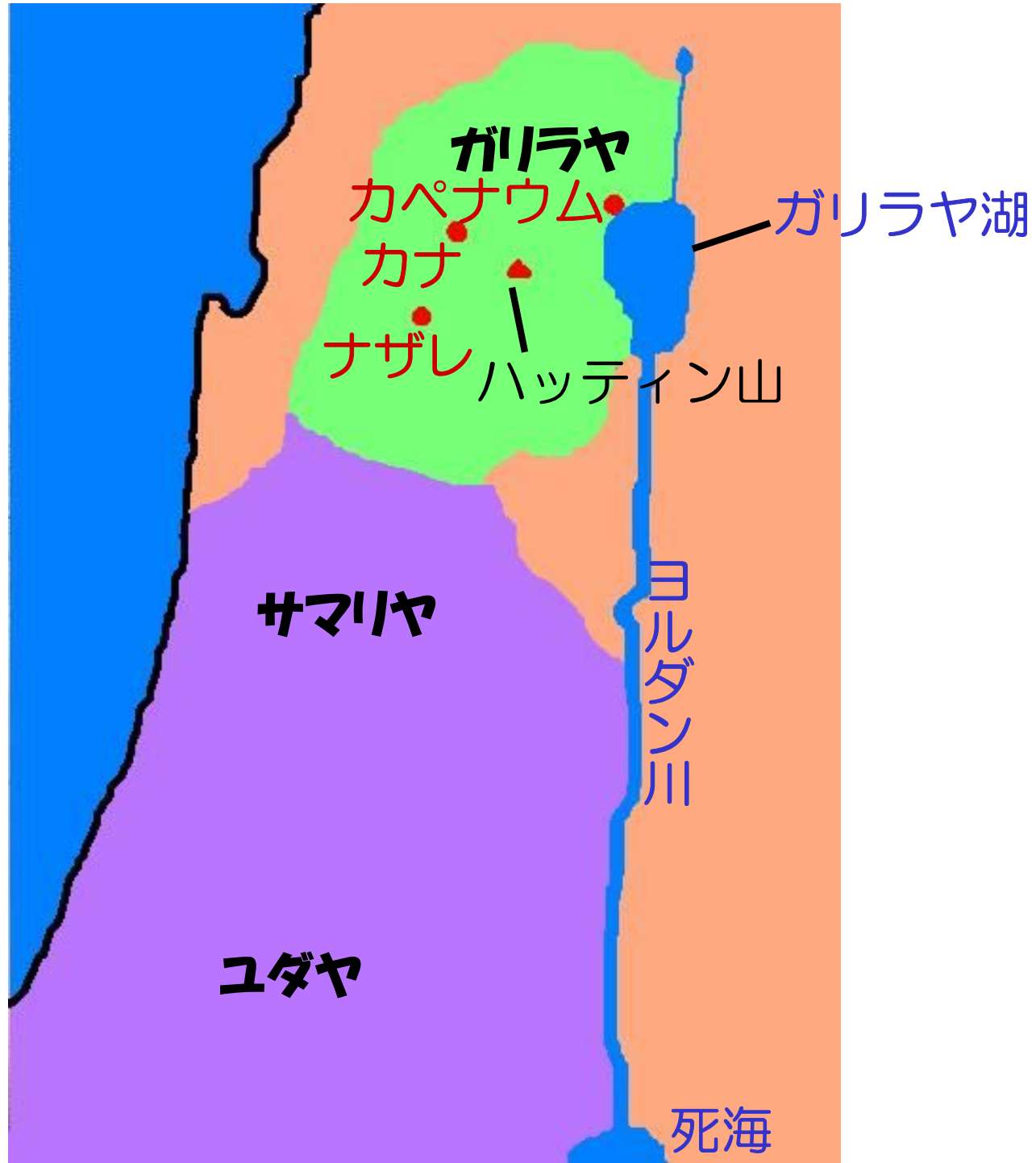
「主はわたしを遣わされた。
捕われ人には赦免を、
盲人には目の開かれることを
告げるために。
しいたげられている人々を
自由にし、
主の恵みの年を告げ知らせるため
に。」

(ルカ4:18—19)

A. 主の宣言の背景

1. ナザレ訪問

- ・ ガリラヤ伝道の初期
- ・ ナザレという場所（地図参照）
- ・ 安息日礼拝の慣わし
- ・ イザヤ書の朗読と解説



2. イザヤ書61章の意味

- 「主のしもべ章句」の一つ
- 主の僕とは、主に選ばれ、
主の使命を遂行するための器

(イスラエル、イスラエルの一部、
預言者・ ・ ・究極的にはメシヤ)

・ 61章は、バビロン捕囚からの
釈放とイスラエルの回復

(完全な意味では、メシヤによって
齎される神の国)

の予言です。

3. 61章が「成就した」とは？

- ・ イエスが、約束のメシヤである
という間接的な宣言
- ・ 多くの人々は喜びをもって
受け入れた
- ・ 他の人々は「人間イエス」に
とらわれすぎて拒絶した

B. 宣言の内容

1. 鍵であるメシヤ(キリスト):
「油注がれたもの」

2. 解放の福音

- ① 貧しい人々に良きおとずれが伝えられる
- ② 捕われ人は赦免される
- ③ 盲人は目が開かれる
- ④ しいたげられている人々は自由される

3. 恵みの年

- ・ イザヤ61章の「恵みと裁き」の
予言から、後者は省略
- ・ 「恵み」(ギリシャ語でデクトス、
ヘブル語でローツオーン)
＝「愛顧」、「受け入れ」
- ・ 「ヨベルの年」(レビ25:10) との
関連
＝土地の回復、奴隷からの釈放

- 「恵み」はキリストの贖いによって実現

C. 宣言の今日的意義

1. 「恵み」が信仰生活の
あらゆる面での鍵
2. 私達が「受け入れる」時に
恵みは働く